

青い目の人形物語 その2

～ 答礼人形・「ミス宮城」の里帰りから ～

昭和2年（1927年）、アメリカから贈られた12,739体の青い目の人形たちは、当時の日本で大歓迎され、アメリカと日本の子供たちの友情を育てました。そして、このアメリカからの友情に答えようと、日本の小学生たちも1人1錢ずつ出し合って58体の市松人形を製作し、答礼人形としてアメリカの各地に送ることになったのです。

宮城県から贈った答礼人形「ミス宮城」は、アメリカのカンザス州トピカのマルバーン美術館に送られたことが分かっていたのですが、その後しばらくの間、消息が分からなくなっていました。しかし、1998年カンザス州在住のマーガレット・R・コルベットさんが所有していることが分かり、2003年（平成15年）5月には宮城県に里帰りを果たしました。2003年（平成15年）5月21日～25日に、仙台市歴史民俗資料館で行われた企画展「青い目の人形と Miss みやぎ～おかえりなさい「ミス宮城」76年ぶりの里帰り」を歓迎して～」では、ミス宮城の他に戦後県内に残っていた8体の「青い目の人形」と3体の新・友情人形なども展示され、76年ぶりの人形を通した日米親善が行われたのでした。

このとき、コルベットさんは三本木小学校にもおいでになり、新・友情人形である男の子の人形「トビー」をくださいました。児童代表として6年生の高橋優莉奈さんは「アメリカと日本の平和のため、世界中の人々が平和になれるように努力します。」とお礼の挨拶をしています。コルベットさんと三本木小学校の交流はその後も続き、後日「エフィー・アン」などの人形も贈られています。



答礼人形「ミス宮城」（マーガレット・コルベット氏所蔵）
高さ 83cm 人形の背中にあるラベルと台座のラベルでは、作者の名前が異なっており、昭和初期、アメリカに送られた当時に台座と人形が入れ替わったと思われる。



□ 新・友情人形贈呈式でのコマ（H15.5.22）マーガレット・コルベットさんから贈られた新・友情人形トビーを抱いて大喜びの子供たち



□ 新・友情人形贈呈式（H15.5.22）においていただいたマーガレット・コルベットさん（右）と長女ドリー・パーキィさん（左）